

一宮町長
馬淵 昌也

5月27日のごみゼロ運動には、大勢の方々にご参加いただきました。誠にありがとうございました。皆様のご協力に心より御礼申し上げます。

私は、各地区の集積所を回らせて頂きました。各集積所では、以前よりごみが少なくなつて、数分の一の量となつた、というお話しを伺いました。確かに、私が子供のころには、有名な谷津干潟ではないですが、ごみが大量に捨てられているところをよく見かけたように思います。今は、そこまでひどいところは確かに少なくなりました。多くの方が、「むやみにごみを捨ててはいけない」と考えるようになってきたとすれば、大変ありがたいことです。

しかし、まだ不法投棄の粗大ごみはかなりありますし、日常的なごみも、いくつかの地点には相当の量で見られます。私も、登庁の際、家から役場まで歩いてゆく時にはごみを捨つようになっていますが、毎日新しいごみが少しずつ捨てられていて、きりがありません。なかなか、本当の意味で「ごみゼロ」にするのは難しい状況です。

路上のごみで量的に多いのは、タバコの吸殻です。喫煙者の方の意識では、

吸殻は小さいからいいではないか、ということかもしれません。しかし、それは間違っています。タバコを吸うについては、屋外であっても携帯灰皿を使っていただきたいところです。

環境美化に関する問題としては、さらに犬の糞の問題もあります。多くの飼い主の方は、犬の散歩時に入コップとビニール袋を持参して、糞をしたら回収してゆかれます。しかし何も持たない飼い主の姿も時折見かけます。あぜ道などでは、犬が糞をしても、関係ない、ということでしょうか。これは衛生上も、美観上も、大いに問題のある行動です。

一宮町は、2020年にオリンピックを迎えます。日本中・世界中から多くの方がお見えになります。それなのに、町にごみや犬の糞が落ちていては、話になりません。ある方は、オリンピックの到来を契機に、「日本一のきれいな町」を目指すのはいかがですか、とご提案下さいました。確かに、これを契機に、ごみを捨てない自覚を、住民が来訪者かを問わず、さらに高める必要があると思います。みんなで頑張つてゆきましょう。